



福島県が推進する 重点産業分野での 飛躍を目指して

株式会社井部製作所
代表取締役
井部 良則

井部製作所は、東京都目黒区に本社を置く企業で、千葉県山武市松尾町に工場（松尾工場）を持ち、半導体関連部品、航空宇宙関連部品、産業機器関連部品、医療機器関連部品等精密部品加工を行っています。

父である井部一治が1966年（昭和41年）に創業しました。先代は、2004年（平成16年）12月に他界したため、翌年1月に代表取締役に就任しましたので、私が二代目になります。

我が社は、常にお客様へ安心と信頼を提供し続ける企業を目指すという経営理念の下、日々努めています。

製造拠点を拡充する目的で福島県南相馬市に工場（南相馬工場）を設置し、今年1月から操業を開始しました。

Q1 福島県へ進出を決めた理由は？

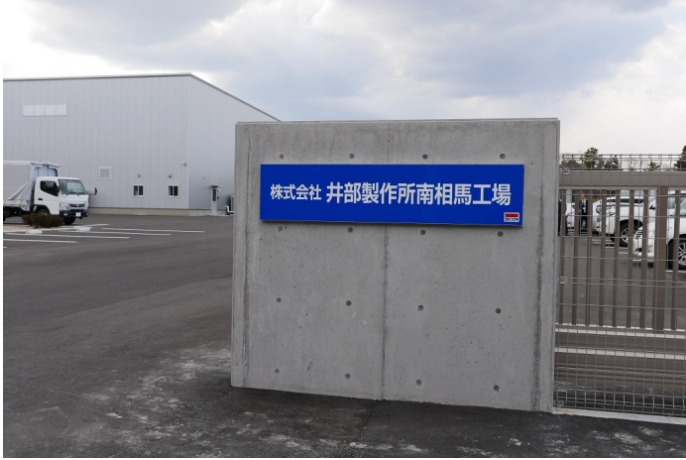
－最後に背中を押したのは南相馬市担当職員の熱意

いわき市に取引先があり週に3回くらいの割合で福島県に来ていたので、福島県とは縁があったことに加え、我が社として東日本大震災の復興に何も出来なかったのが、せめて進出するなら東北ということでお役に立てればという思いから、福島県で立地場所を探しました。

いくつか候補地が見つかりましたが、現在立地している南相馬市の下太田工業団地が、予算的にも広域的にもちょうど条件にあっていたということもありましたが、最後に背中を押したのが、南相馬市の担当職員の熱意でした。千葉県の工場にまで3度もわざわざ足を運んでいただき、そのたびにいろいろとアドバイスをいただき非常に助かりました。

また、我が社は半導体をメインでやってきましたが、半導体に依存しすぎると景気に左右されてしまうという問題意識から、新たに航空宇宙産業に進出するとともに、医療機器も若干ですが取り組みはじめています。

福島県は医療機器産業分野の振興に特に力を入れているので、その分野を伸ばせる地域ではないかと思ったというのがもうひとつの理由です。なお投資にあたっては、津波補助金を活用させていただきました。



Q2 進出に際して苦労したことは？ －人材確保と宿舎の確保

昨年の夏頃からハローワークを活用して人材確保に取り組みました。最初は順調に採用できたのですが、残り数名のところまでパタリと反応がなくなりました。時期的には昨年の12月末頃のことでした。津波補助金の交付要件である採用者数は確保出来ていますが、工場を着実にまわしていく上で必要であると計画していた人数には未だに達していません。

また、工場立ち上げ支援ということで千葉県松尾工場から4名に単身で来てもらっているのですが、その宿舎の確保が大変でした。現在は状況は良くなっていると聞いていますが、当時はアパートが建つそばからすぐに埋まってしまうという状態だったので、空き部屋が出たと同時に現地を確認もせずには押さえるという対応でようやく必要数を確保しました。



Q 3 南相馬市に進出してよかったことは？

－南相馬市の引き続きのサポートと自然と交通アクセス

進出を決めてからも南相馬市の担当職員からいろんなことに関してアドバイスをいただけ、ものすごく助かりました。また、南相馬市は海も山もあり、自然に恵まれた環境の中で仕事ができることは大きなメリットだと感じています。

千葉県松尾工場から常磐高速道を使えば短時間でアクセスができるという利便性も感じています。また、鉄道に関しては、仙台方面からの常磐線が繋がったので、鉄道を使って仙台経由で訪問される取引先企業の利便性はあがっていますし、鉄道が繋がったことにより仙台空港の活用も視野に入ってくると思います。

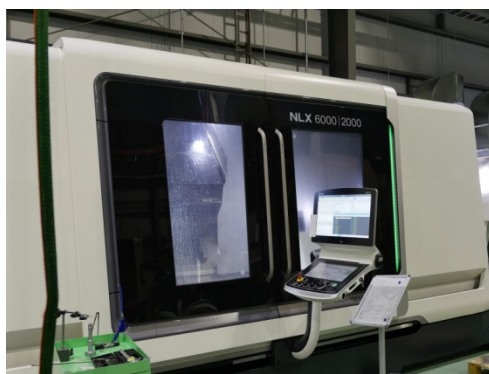
Q 4 今後の展望は？

－福島県が推進する重点産業分野での飛躍 地元自治体や国に今後期待することは？

－人材確保に関する施策の推進

福島県が推進する重点産業分野であるロボット産業や医療機器産業での取り組みに積極的に参加していきたいと考えています。

少子化が進む中、けっして福島県だけの問題ではありませんが、人材確保は一企業では解決できる問題ではないので、5年10年後をにらんで、是非取り組んでいただきたいと思います。



企業名 株式会社井部製作所

ホームページ <http://www.ibeseisakujiyo.co.jp/index.html>

本社 東京都目黒区目黒本町6-9-4

設立 1966年（昭和41年）4月

代表者 井部 良則

立地場所 福島県南相馬市原町区雫字蛭沢175-3（下太田工業団地内）